

駆け抜けた放送大学の4年間（人間探究）木下俊延

この4年間は、久しぶりに充実した月日を過ごさせてもらいました。肉体的に少し衰えを感じる老年期に差し掛かり、一時は道のり長く感じられましたが、終わってみれば、あっという間のことでした。

放送授業で、充実した教養をわが身に放り込むことを基本にして、勉強しました。面接授業も楽しかったですね。先生への質問や周囲の皆さんとの、ちょっとした会話は、それぞれ全てが楽しく有益でした。

その上、4年間で一番印象に残ったことと云えば、やはり卒業研究です。月一回のゼミ形式をはじめて経験したことです。学者先生の厳しいご指導を仰ぎ、どうにかこうにか纏めることが出来ました。生まれて初めての論文作成は、今のこの文章と何ら変らぬ文体やテニオハなので、文章表現から修正いただきました。何となく、演歌調だな、と言われて一同爆笑したこともありました。学問では、学術的な論文用語や決まりによる表現で主張して初めて、学術的に価値ある論文になるのが分かりました。

この程度の論文は、もしも大学院レベルではまったく通用しないので、なお一層の努力が必要であると、最終審査で云われました。合格は半信半疑でいたところ、A評価いただき、感激しました。4年で卒業できたのは、卒研合格が大きかった。卒業研究は、厳しくとも、非常に遣り甲斐があることと思われまます。

若い頃には、大卒資格がないので、何回か苦い思いをしました。教養を積んで若い方に負けない老人になろう。学士（教養）の学位をいただいて、これから何が出来なのか、次の目標を思案しています。

このようなチャンスを下さった放送大学に、感謝するばかりです。有難うございました。